



デジタル時代の認知科学・心理学に関する小学校 6 年生対象の防災共創授業を実施しました（2022.11.1）

テーマ：災害科学、認知科学、心理学

場 所：岩泉小学校（岩手県）

11月1日（火）、認知科学・心理学に関する内容について、小学校6年生の児童を対象に防災共創授業を実施しました（写真）。ここでいう「防災共創授業」における「共創」には、授業をつくるのは、授業者（今回は齋藤玲助教・認知科学研究分野）だけでなく、学級担任の先生、そして子どもたちであるという願いが込められており、実際の授業づくりにおいてこの願いを実現しました。

この授業の目的は、よりよく生きるために、よりよい社会をつくるために、人間の認知や行動の特徴を子どもたちに理解してもらう必要があるという確信から、以下の通りに設定しました。すなわち、この授業の目的を、「わたしたちのせかいの見え方・考え方を理解しよう」というものにしました。そして、この目的を達成するために、錯視や曖昧語、曖昧文、そして認知バイアスを授業の内容として取り上げました（図1：この授業のため作成したワークシート）。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う授業時間の減少によって授業時間数が確保できないことから、授業は、事前の動画視聴→授業（45分）という構成で行われました。事前学習動画（図2）は、YouTubeにアップロードして、授業の前の日までに学校で視聴してもらいました。また保護者も視聴できるように設定しました。

授業の事前事後に質問紙調査を行うことで、この授業の効果検証を行ったところ、おおよそ当初のねらい通りの結果となりました。具体的には、人間の認知・行動の特徴に対する関心だけでなく理解が促進されたこと、また防災についての興味・関心が高まったこと、さらには人間の認知・行動の特徴（なかでも認知バイアス）について気をつけるために、一歩立ち止まって考えることの重要性への認識も高まりました。

最後に、昨今「誰一人取り残さない」ということが合言葉のように使われていますが、それを実現させるために、この実践では、欠席した子どものためにその日の授業を再現した動画（図3）をYouTubeにアップロードし、欠席した子どもたちが視聴できるようにしました。またこの動画は、欠席者のためだけでなく、参加した子どもが復習するために、さらに保護者が防災に関する授業を追体験するために、有効であると信じています。今後、このようなデジタル時代における防災共創授業を全国展開していきたいと考えています。

なお、この防災共創授業は、中央教育研究所（令和4年度教科書研究奨励金）から助成を受け、実施しました。

文責：齋藤 玲（認知科学研究分野）
（次頁へつづく）



写真 防災共創授業の様子



図 1 ワークシートの表紙

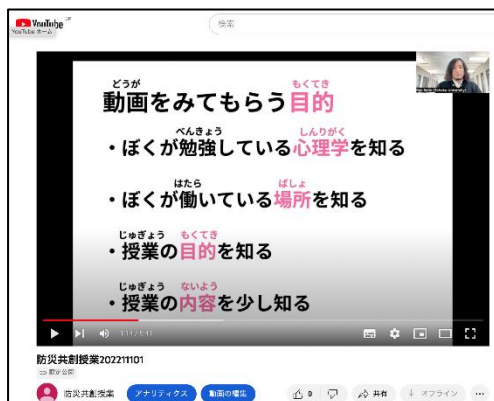


図 2 防災共創授業のための事前学習動画



図 3 欠席者のための防災共創授業動画